

# ガザミの移動生態と資源管理に関する研究

有明海研究所

## 背景、目的

有明海のガザミは産業的に重要ですが、移動などの生態は未解明な部分も多く、夏季には漁獲した脱皮直後の軟甲ガザミがへい死し、鮮度低下による価格下落が問題でした。そこで、ガザミの移動生態を把握するため、軟甲ガザミの標識放流を実施し、あわせて、軟甲ガザミの再放流効果を検討しました。

## 成果の概要

### (1) ガザミの移動生態

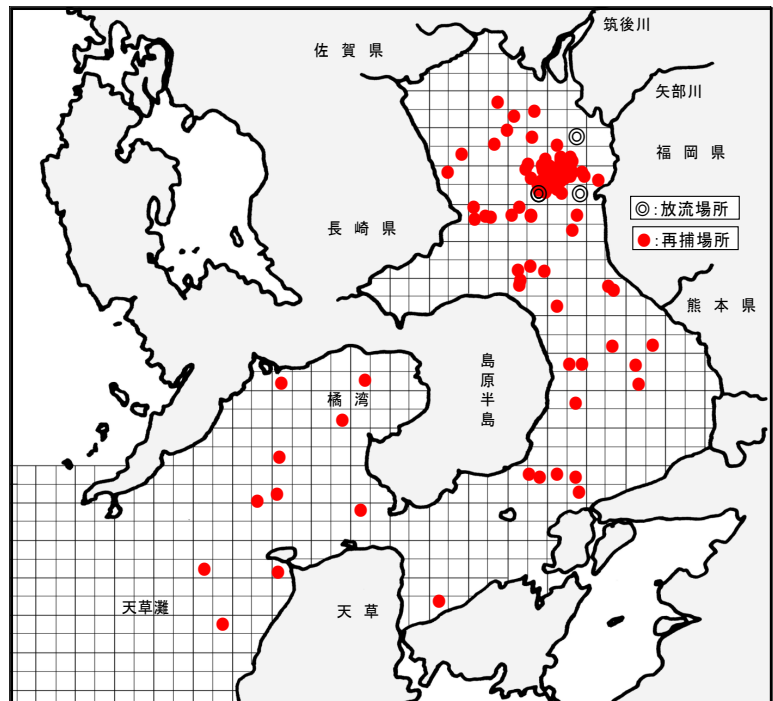
福岡県地先からペイント標識した軟甲ガザミを放流した結果、多くは福岡県地先で軟甲が硬化後に再捕され、その後、有明海の湾奥部～湾央部～湾外へと移動する様子が明らかとなりました。また一部は遠く天草灘への広域回遊が確認されるなど、従来明らかにされていなかったガザミの移動生態に関する貴重なデータを得ることができました。

### (2) 軟甲ガザミの再放流効果

計1,117尾を放流した結果、再捕は103尾で、再捕率は9.2%でしたが①移動生態把握のため刺網盛期（9月）を外して放流したこと、②脱皮による標識脱落、③報告率の低さ等を考慮すると、再捕率のさらなる上昇が見込めることから、軟甲ガザミの再放流は価格向上に効果があり、漁業者の資源管理意識の高まりも期待できると考えられました。



標識放流周知ポスター



ガザミの移動